

令和7年度	府中市新町小学校経営計画（中間報告）			令和8年2月9日	
学校教育目標	○進よく考え伸びる子(知)…「問題解決力」問題の解決に向けて予想や手順を考え、計画的に追究することができる。 ○思いやりをもって伸びる子(徳)…「人間関係形成力」望ましい人間関係を築くために、自他を尊重し認め合いながら協力する。 ○体をきたえ伸びる子(体)…「実践力」自分のめあてを自覚して、工夫しながら、粘り強く取り組むことができる。	ビジョン	【目指す学校像】	自分らしさを見つける学校【自分のことが表現できる学校であり、幸せと感じる学校でありたい】	
			【目指す児童像】	はきはき、わくわく、のびのびと学校生活を送る子供【自分らしさを生かす子供】	
			【目指す教師像】	身なりを整え、礼儀も覚え、子供のために、学び続ける、教師でありたい！	

取組目標…3.5未満は赤表示

成果目標…3.0未満は緑表示

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	次年度への改善策
確かな学力	●府中市教育課程グランドデザインを受け「発見する」、「対話する」、「決定する」、「表現する」の4つの視点を重視して、現在社会に必要な資質・能力の育成を図る。、学力の基礎基本である言語因子や数量因子を確実に身に付け、思考力も高める。 ●多様な教育ニーズの対応するため、配慮を要する児童の個に応じた指導を充実する	学習の基礎となる「数量因子」と「言語因子」の定着と向上を図り、児童が習得目標を達成するようにする。 【基礎・基本を定着させるための全校共通実践】（通常級担任、算数少人数）【1年生抜かす】	1 国語〔言語事項〕漢字など（期末に実施する言語のワーク）を活用して実施する。	4 継続的に計画を80％実施した 3 70％以上程度計画通り実施した 2 60％以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった	3.7	4 定着率が平均80点以上だった 3 定着率が平均70点以上だった 2 定着率が平均60点以上だった 1 定着率が平均50点未満だった	3	習熟タイムなどを利用して、ミニテストなどを定期的実施し繰り返し漢字等の習熟を図ることができた。苦手意識をもつ児童や読み書きが苦手な児童に対する指導が課題である。	低学年は支援枠の活用や、中・高では復習を兼ねた漢字の学習、国語の時間での習熟タイムなどを行う。朝学習の時間を効率的に使って、漢字学習を徹底する。児童の自信と意識を高める。
			2 東京ベーシックドリルを実施する。算数の「知識・技能」の定着できるようにする（1年抜かす）	4 継続的に計画を80％実施した 3 70％以上程度計画通り実施した 2 60％以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった		4 定着率が平均70点以上だった 3 定着率が平均65点以上だった 2 定着率が平均60点以上だった 1 定着率が平均55点未満だった			
		府中市教育課程グランドデザイン「発見する」、「対話する」、「決定する」、「表現する」ことを意識して、「思考力、判断力、表現力等」を身に付ける（全教職員）	3 国語を中心に、①主体的に「表現し伝える」、「②自分の願い等を実現」できる授業を意識して、特に表現力を高める。	4 主体的に表現する学習等ができた。 3 主体的に表現する学習等がほぼできた。 2 主体的に表現する学習等がややできなかった。 1 主体的に表現する学習等ができなかった。	3.3	4 自分の考えを表現できる児童が80％以上いた 3 自分の考えを表現できる児童が70％以上いた 2 自分の考えを表現できる児童が60％以上いた 1 自分の考えを表現できる児童がが60％未満だった	3	国語より低い自己評価の結果になった。支援枠や習熟の時間等で繰り返し替えし、指導はできたが、成果があがっていないため、個に応じた端末を活用した指導をしていく。	ドリルパーク、習熟タイムでの100マス計算、ミニテストなど個に応じた指導をしていく。算数の授業の中で、繰り返し、図形の知識、計算技能は高めるようにしていく。
			4 配慮を要する児童に対し、個別の支援シート及び保護者と共有し、個別指導計画の目標達成のための指導を充実させる（全職員）	4 計画を90％実施した 3 80％以上程度計画通り実施した 2 60％以上程度計画通り実施した 1 60％未満で計画通り実施した		4 目標を達成した児童が80％以上だった 3 目標を達成した児童が70％以上だった 2 目標を達成した児童が60％以上だった 1 目標を達成した児童が60％未満だった		1学期中に該当する保護者と積極的に面談をすることで、児童の就学前の様子も分かり、指導につなげることができた。保護者と共に作る支援シートは効果的であった。	ひばり教室と保護者との連携をさらに強化をしていく。担任任せにならないように、学年や校内委員会等で対応できるように、個に応じた対応策をや適切な評価を考え、目標の達成につなげていく。
豊かな心	●豊かな心の育成、自主的・実践的な取り組み特別活動の充実を図るため、学年の子供は学年で育てるように、授業や体験活動を充実させ、不登校、いじめなどの対応を組織的に行う（スクールコミュニティの推進・評価・小中と連携しながら）	○特別活動・体験活動を改善工夫し、総合的な学習の時間、特別活動等の充実を図る（全教員）	5 府中教育課程グランドデザイン「①発見すること、②対話すること、③決定すること、④表現すること」を重視して特別活動・総合的な学習の時間等の学習の体験を通して、共に認め合う気持ちを育てる。	4 グランドデザインを意識して90％実施した 3 グランドデザインを意識して80％以上程度実施した 2 グランドデザインを意識して60％以上程度実施した 1 グランドデザインを意識して60％未満で実施した	3.1	4 認め合う児童80％以上になった 3 認め合う児童が70％以上になった 2 認め合う童が60％以上になった 1 認め合う児童が60％未満だった	3	黒板にグランドデザインの視点を提示することで、児童にもどんな場面かを意識をさせた。総合的な学習の時間や生活科等でも、認め合う場面などは確保ができた。	学級活動で互いのよさに気付く活動や探究的な活動だけではなく、協働的な学び、対話的な学びを取り入れていく。来年度も、お互いを認め合う児童を育成していく。
			6 ユニバーサルデザインの視点から学習規律・教室環境を徹底し、聞く・話す態度を育成する。（学習の約束、教室環境の徹底を図る）	4 学習規律や教室環境を90％徹底・整備した 3 80％以上の実施した 2 70％以上程度計画通り実施した 1 70％未満で計画通り実施した		4 学習規律が身に付いた児童が80％以上だった 3 学習規律が身に付いた児童が70％以上だった 2 学習規律が身に付いた児童が60％以上だった 1 学習規律が身に付いた児童が60％未満だった		グランドデザインを意識して特別活動、総合に取り組ませている。児童は、1学期の発表において、自分の学習のまとめを発表し、他の児童とポジティブな感想を伝え合うことができた。	話す・聞く態度について、苦手な児童にも粘り強く声をかけ、よくなったことを評価し、適切な態度のよさを感じさせていく。個々の段階に合った指導と評価を適切に繰り返す。
		不登校・いじめ対策委員会・校内委員会等で配慮を要する児童やいじめの対応策・不登校対策を考え、実施する（全教員）	7 不登校・法に基づくいじめの対応、校内委員会・いじめ対策委員会の充実を図り、配慮を要する児童の問題行動への支援・指導に学級・学年・学校で組織的に対応する（一人で抱え込まない）	4 共有し、組織的に対応することができた 3 共有し、組織的にほぼ対応することができた 2 共有し組織的にあまり対応することができなかった 1 組織的に対応することができなかった	3.6	4 配慮を要する児童に対応することができた 3 配慮を要する児童にほぼ対応することができた 2 配慮を要する児童にあまり対応することがでなかった 1 配慮を要する児童に対応することができなかった	3.6	不登校・いじめについて、何かあれば学年で共通理解を図り、対策委員会、校内委員会にて支援策等を話し合って対応している。	引き続き、複数の目で、いじめ・不登校の未然防止に努め、早期発見をこころがける。対応が必要な場合は、早期対応を行い、一人で抱え込まないように、組織的に複数で対応を行う。
			8 体力向上を図り、学期に2度程度の学校行事・集会活動等を通して、運動や遊びに楽しく参加する児童を増やし、健やかな体を育成する	4 計画を90％実施した 3 80％以上程度計画通り実施した 2 70％以上程度計画通り実施した 1 70％未満で計画通り実施した		4 児童の80％以上が取り組めた 3 児童の70％以上が取り組めた 2 児童の60％以上が取り組めた 1 児童の60％未満が取り組めた		暑さにより、休み時間、校庭体育等ができず、体力の低下を感じる。体育の授業では、学年等で工夫をして充実を図った。外遊びの推奨した。	運動能力・体力調査の方法など、研修等があるとさらに体力を高めることができる。二学期からのロープチャレンジ、持久走等で教え方の共有していく。体を動かす楽しさを伝えていく。
健やかな体	●「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を図り、体力向上を推進したり、生活習慣の改善を図る指導を実施したりしながら、体力向上、健康の保持増進に取り組む	基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持増進に取り組む（全教員）	9 保健、道徳の時間等を活用して児童自身に、基本的な生活習慣について考え、実践する（生活習慣の振り返り）	4 継続的に計画を90％実施した 3 80％以上程度計画通り実施した 2 70％以上程度計画通り実施した 1 70％未満で計画通り実施した	3.4	4 児童の80％以上が実践に取り組めた 3 児童の70％以上が実践に取り組めた 2 児童の60％以上が実践に取り組めた 1 児童の60％未満が実践に取り組めた	3.1	保健や道徳の授業で、規則正しい生活、生活習慣について考えることはできている。個々について、実践力を付けて行くことが課題である。	保健や道徳の授業を、大切にして取り組んでいく。家庭での実践が定着には欠かせない。家庭への啓発をさらに継続していく。〇〇ウィークなどカード等でも取り組んでいきたい。
			10 教師として適切な指導を行えるように、アンガーマネジメント意識したり、複数で指導を行ったり、不適切な指導にならないようにする。（服務事故は起こさないように、お互いにチェック機能強化する）	4 アンガーマネジメント等意識した 3 ほぼ意識した 2 あまり意識できなかった 1 意識できなかった		4 適切な指導ができた 3 適切な指導がほぼできた 2 適切な指導があまりできなかった 1 適切な指導ができなかった		不適切な指導の防止に努めていく。生活指導の対応等は、複数で行うことができた。感情的な指導にならないように努めることができた。	言葉遣いを含め、教師として服務規律をこころがけていく。アンガーマネジメントの研修等を今後も続けていく。
働き方改革	●ライフワーク・バランスを推進し、必要な会議・行事・教育課程を見直し、働き方改革を推進する。	行事等で効率化できないか管理職にボトムアップし仕事の効率化を目指し、働きやすい環境をつくる。（全教職員）	11 主幹教諭・主任教諭は、効率的な校務を意識し、勤務時間外の仕事を月45時間以内に（結論の先述、方向性を決めた会議のあり方を通して定時で公の会議は終わりにする）	4 効率的な会議を90％実施した 3 効率的な会議を80％以上程度実施した 2 効率的な会議を70％以上程度計実施した 1 効率的な会議を60％程度実施した	3.1	4 平均して45時間は越えなかった 3 平均して50時間は越えなかった 2 平均して50時間は越えた 1 平均して55時間以上が勤務時間外だった	2.6	平日の会議は少なくなった。会議の前にはできることは行い、担当部会で共有したことで、円滑に会議を進めることができた。さらに、削減できる校務は削減をした。	会議前には資料は事前に配布してするか、今後も電子データを早めにあげ、資料に目を通しておく。児童への対応策については、学年・コーディネータで対応策を決め、議論の方向性を決めておく。